

IV-51

計画のキーワード群の因子分析によるコンセプトづくりへのアプローチ

鶴福山コンサルタント 正会員 石田 健
 同 上 正会員 伊藤 将司
 同 上 正会員 山本 洋一

1. 研究の主旨

筆者らはこれまで、計画のコンセプトを構成するキーワード群相互のイメージ、機能による連関構造パターンについて分析を行った（第47回報告）。

本論は、この同じキーワード群を用いて「計画コンセプト」という視点からキーワードを評価する因子を設定し、因子分析を行うことにより、計画イメージをより具体的に表象するためのコンセプトづくり、或はキーワードによるプレゼンテーションのあり方に資するため、更に分析を進めたものである。

2. 研究の構成

研究フローを図-1に示す。

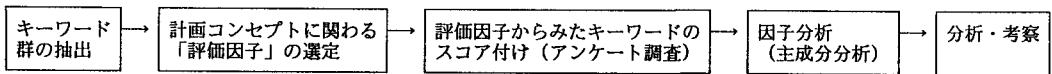


図-1 研究フロー

3. 評価因子の選定とスコア付け

計画イメージを具体化する上で、基本的なファクターとなる表-1に示す8つの項目を評価因子として選定した。

次に、評価因子の基本尺度を試行的に1～3で表-1のように設定し、アンケート調査により各キーワードについて、評価因子毎のスコア付けを行った。

表-2は、広場・公園計画、景観計画、地区計画について、既往調査で概ね典型的に用いられるキーワードを取り上げて、スコアの平均値を算出したものである。

これによれば、「形態」や「広がり」では計画の種類により差が大きく、「経済」ではほぼ同等となっている。また、「動き」、「様態」は3つの計画の平均スコアがMAX-MINの関係にあり、各計画相互におけるスコアは同順となっている。概ね各計画のイメージとスコアとが、計画が有する「空間的広がり」、「利用形態」という観点でマッチしたような結果が得られた。

表-1 計画のキーワードの評価因子の選定

	評価因子	内 容
A	形 態	点 ←→ 面
B	広がり	局 所 ←→ 広 域
C	動 き	静 ←→ 動
D	経 済	非生産性 ←→ 生産性
E	次 元	非日常性 ←→ 日常性
F	歴 史	古 ←→ 新
G	様 態	ソフト ←→ ハード
H	感 性	感覚的 ←→ 非感覚的
因子のスコア		1 3 2

表-2 評価因子の平均スコア

	A. 形態	B. 広がり	C. 動き	D. 経済	E. 次元	F. 歴史	G. 様態	H. 感性
広場・公園計画	2.40	2.06	2.27	2.03	1.96	1.91	1.78	1.79
景観計画	1.89	1.78	2.04	2.08	2.24	1.91	1.48	1.64
地区計画	2.06	2.25	2.25	2.09	2.19	2.25	1.75	1.88
合 計	2.11	2.03	2.19	2.07	2.13	2.02	1.67	1.77

4. 因子分析

キーワードの評価因子別スコアを指標として主成分分析を行った。「評価因子」の主成分構成図及び「キーワード」の主成分得点図をそれぞれ図-2、図-3に示す。

主成分構成図によると、明示的ではないが、第1主成分軸では計画のコンセプトの「心理的・生理的側面に関わる因子」、第2主成分軸では計画のコンセプトの「物理的な側面に関わる因子」という傾向が表れている。

主成分得点図にプロットされたキーワード群を計画の種類別にグループ化すると、傾向的には第2主成分軸において広場・公園計画がマイナズ側に偏っているといえる。これは、計画の種類により、コンセプトの「心理的・生理的な側面」よりも「物理的」な側面のほうが分散が大きい。

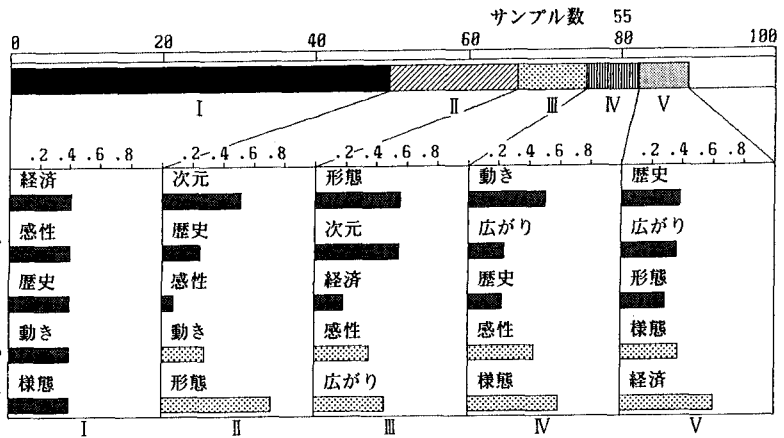


図-2 主成分構成図

5. 考察

- ①. アンケート調査による各キーワードの評価因子毎のスコアは、概ね計画イメージとマッチしている。
- ②. 8つの評価因子が基本的に、「心理的・生理的側面」及び「物理的側面」の2軸に集約出来ることがわかった。
- ③. 主成分得点図において、計画毎のキーワードが重合しているエリアと、選別出来るエリアに区分することが出来る。

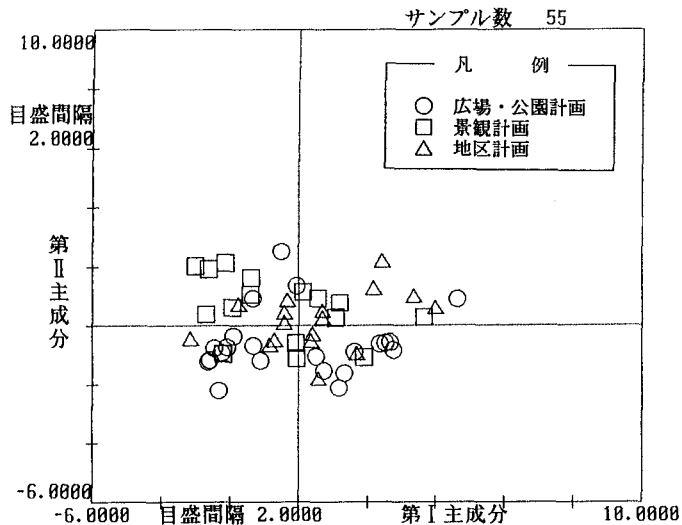


図-3 主成分得点図

- ④. このことは、今回のアプローチが計画の内容、コンセプトを的確且つ具体的に表現する上で、どのようなキーワードを選定し、どのように組み立てることが有効であるかについての1つの示唆を与えるものであるといえよう。

本研究は、評価因子の設定によりコンセプトとキーワードのマッチング等について考察を試みたものであり、今後も更にコンセプトの構造分析を進め、より有機的な地域計画へのアプローチを検討していきたいと考えている。